

健康教育研究委員会

1 研究テーマ

「自分の心とからだで、ありのままの自分、友だちを受け入れ、
自己決定していく力を育む支援のあり方」

2 研究課題

研究内容 研究授業実施

期日 平成 16 年 6 月 23 日

単元名 「探検・発見 自分の心と向き合おう」

題材名 「発達してきた心」

授業校・授業学級・授業者 豊丘小学校 5 年 高澤 恵教諭、橋本朋子養護教諭

豊丘小学校では平成 14 年度から 3 年間文部科学省の「エイズ教育推進地域」に指定されたことから、学校教育目標「心豊かで考え深くたくましく」のもとに、エイズ教育を中心にすえてあらゆる教育活動の中でその具現に向けカリキュラムの改善を行っている。研究テーマを「自分の心や体に関心を持ち自他の命を大切にしたい自己決定力を育むエイズ教育（性教育）はどうあったらよいか。」として発達段階に応じた系統的なエイズ教育（性教育）のカリキュラムを 正しい知識を身につける内容、 繰り返し練習することで獲得していく生活能力、 命に対する豊かな心情を育む内容から構築しスパイラルな学習の積み重ねをしていくことが大切であるとして研究を進めてきた。知識に加えてさらに全教育課程を通して様々なライフスキル獲得のための手法を必要に応じて取り入れることが実現のための手だてのひとつであると考えた。本時の中でも自己決定力を培うための手立てとして正しい知識をもとにした自己肯定感の育成と、問題に対処できる方法を身につけるためのライフスキル学習、養護教諭との T T による効果的な学習が有効であるとの仮説をもとに実証授業を行った。

3 研究の成果

- (1) 自分の心や体の成長に興味を持ち始める子どもたちの気持ちや不安をとらえ、知りたがっている内容を把握することで子どもたちが求める知識を必要な時に、正しく教えていくことができた。
- (2) ライフスキル学習をいろいろ組み合わせ、くり返し行なうことで子どもたち自身も慣れてきて、自分を表現したり見返したりする手だてとして有効であることがわかった。
- (3) 養護教諭が T T として関わったことで科学的な知識、説明により理解が深まったが、内容が発達段階にあっていたかどうか再度検討が必要だと感じた。説明が難しく集中できない子もいた。

- (4) 性教育はくり返し学ぶこと、スパイラルな学習、積み重ねが大切であり児童のニーズや教科とのかかわり、指導の時期等を検討しながらカリキュラムの編成を見直していくことが必要である。

4 指導の実際

自分たちの最近の様子と低学年児童の日常生活の様子をビデオで見ながら考え、幼かった頃と比べて自分が変わってきたことについてブレーストーミングを用いてカードに書き出させた。それを感情、社会性、思考力の発達という三つの心の分類に分けて考えさせた。ＴＴとして関わった養護教諭から、心の発達は脳の発達に関係しているという説明を聞き、昨年学んだ「したい脳」や「ちょっと待て脳」とも結びつけて知識面をおさえた。さらに自分たちが書いたカードをワークシートに分類して貼っていき、５年生最大の行事峰の原宿泊学習の活動場面と結びつけて心が発達する活動がたくさんあることを確認した。

5 来年度への課題

- (1) 教育課程の中で性教育をどう位置づけていくか各学校で検討し組織していくことが必要である。
- (2) 本年度作成されたカリキュラムを基に、児童・生徒の実態と各学年の発達段階に即した指導内容やカリキュラムの検討を実践していく中で見直していく。
- (3) 養護教諭が授業にＴＴとして関わることについて効果があった。正しい知識を教える、思いを伝えるなど様々な関わり方があるが、有効に役割を果たせるためにどうしていったらよいかをさらに探っていく。
- (4) 知識、ライフスキル学習、心情について指導上のバランスを考える。
- (5) 職員間、家庭や地域との連携、相互理解を図る。

6 その他

研究テーマについては継続していく方向で考える。

来年度は小山小学校が授業校。(予定)